

回 覧

令和8(2026)年1月29日 燕市立小池小学校



HP も随時
更新中

学校だより 月 花 星

新年、あけましておめでとうございます

校長 亀山 正

令和8年が、スタートしました。冬休みの間、子どもたちには大きな事故やケガがなく、始業式に元気に登校してくてくれたことを、嬉しく思います。保護者の皆さん、ありがとうございます。3学期の登校日は、50日(離任式を抜けて)で短い期間ではありますが、各学年の学習や生活のまとめの時です。3学期は、次の学年の0学期でもあるわけで、その準備期間として、本当に大切な期間です。3月下旬には、卒業式という最も大事な行事も控えています。

さて、3学期スタートの日である始業式では、次のような話をしました。

「一年の計は元旦にあり」という言葉があります。「物事が大事で、一年の計画は、はじめの日にしっかりと決めて立てることが大切」という意味です。でも、決めた計画を本気でやることが、もっと大切です。

「実力の差は努力の差」という言葉もあります。頑張ったことにより、めあてを達成することができます。たとえ達成できなくても、頑張ったという事実は、自分自身の中によい経験として残り、その積み重ねが自分を高めていくことになります。

そして、「本気でする」ことで、大体のめあてを達成することができます。その「本気でする」姿を必ず誰かが見ている、見ていた人たち(友達や大人)が、励まして助けてくれます。

3学期は短いので、「本気でする」ことを心掛けて、一日一日を大切に過ごしていきましょう。

始業式のプレゼン資料

一年の計は、元旦
(がんたん)にあり

3学期始業式

物事は、はじめが大事なので、一年の計画は、はじめの日にしっかりと立てることが大切！

3学期 本気でする！

山は低くなってくれない

自分で登るしかない

勉強 努力するしかない

実力の差は、努力の差

今年は、丙午(ひのえうま)の年です。午年は力強く、明るく、前向きな一年を過ごすための縁起の良い干支と言われています。子どもたちには、自分のめあてに向かって真っすぐに突き進み、飛躍、成長してほしいと思います。充実した3学期となるように、職員一同、決意を新たに、子どもたちの成長のために、努力してまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

【子どもたち、頑張っています！(敬称略)】

◇第19回良寛書道展

金賞 6年 中山 光莉 5年 本間 七海 3年 金山 蓮音 霜鳥 太一 渡邊 新

気持ちを整えて真剣に書いた書き初め大会

年始恒例の校内書き初め大会を、1月9日(金)の1・2限に行いました。1・2年生は教室、3・4・5・6年生は体育館で行いました。1・2年生は硬筆、3年生以上は毛筆です。



校長から、正月と書き初めをすることの意味・心構えを聞いた後、いよいよ書く活動です。全員が、新年に入り気持ちを整え、真剣な態度で頑張れたと思います。休み中には、保護者の皆様からの励ましやご指導もあったと思います。ありがとうございました。

なお、書いた作品の中で上手くできたものを展示する「校内書き初め展」は、既に終了していますが、ご来校くださった保護者の皆様、ありがとうございました。



雪遊びについて

雪が降ってきて、グラウンドにも積もっています。遊ぶ子どもたちは、嬉しそうです。しかし、休み時間に雪遊びをするには、次の物が必要です。雪遊びをする場合には、下記の物の用意をお願いします。

○防水用の上着（ズボン） ○防寒用の靴（長靴など）（○帽子 ○手袋）

※下校中の雪遊びは、禁止です。ご家庭でも、お声掛けください



徒歩による登校・下校の推奨について

小池小学校では、登校も下校も歩くことを推奨しています。最近の子どもたちの登下校の様子を見ると、以前に比べて、自家用車で送迎される子どもが減ってきていると感じています。ここで、改めて、徒歩による登下校の良さをお伝えします。

- ・ 毎日の朝の歩行により、体力・忍耐力がつき、朝の脳への血流も増加し、一日を活発に始めるための準備が整います。（生活リズムの安定）
- ・ 学校に着く頃には、体も脳もウォームアップが終了した状態になり、学校での活動への意欲が高まります。（学習意欲の向上）
- ・ 事故に遭わないために交通ルールを守ること、危険から身を守ることを、学び覚えることになります。（危機意識の向上）
- ・ 雨の中、傘はどうやって差すと濡れないのかなど、生活に必要なことを身に付けることができます。雪道を上手に歩くことを覚える、雪は滑るという経験を通して、服が濡れないために転ばないためにどうしたらよいかを、考えることができます。（生活力の向上）
- ・ 毎日「歩く」という、ちょっとした試練の積み重ねを続けることができます。

（忍耐力や主体性の向上）

他にも、友達と歩くことで、協調性・コミュニケーション能力の育成といった心身の成長に繋がります。歩くことで、景色や風が吹く等の自然を感じ、季節を感じることもできます。太陽光や風や水の強さ、雪、寒さなどの自然も、体感することができます。保護者の皆さんにとっても、自家用車による送迎をしないことが、実は、負担の軽減になります。

今の世の中は物が豊かで、戦前・戦後のように生活に不便を感じる時代ではありません。物があることが当たり前、大人（親・教師など）にしてもらうことが当たり前、と思っている子どもが少なくないかもしれません。しかし、「子どもを大事にする」というのは、「子どもの望むことを何でも叶えてあげることだけではない」と思うのです。時には、物を得られない、自分で何とかしなければならぬといった経験をさせることも、必要だと考えます。そのひとつが、徒歩による登下校であると思います。お子さんが、安易な気持ちで車による送迎をお願いすることがあれば、徒歩による登下校を勧めてください。時には、「ならぬものは ならぬ」ことを経験させることも、大切です。

（今までどおり、特別な事情がある場合の自家用車の送迎は、OK です）

最後までお読みいただき、ありがとうございました。